

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

前半 13:24.06

キングダムセミナーの本に入る前に、基本的な大切なところ、創世記1章から4章くらいまでを、見てきました。そのところをみなさん、お聞きになりましたか？お聞きになりましたね。で、消化されましたか？笑。なかなかね。まあ、全部、すぐに、自分の中で、血となり肉となるということは、時間がかかるとしても、すぐには、無理だとしても、少しずつ、食いついていきましょう。

それで、先月は、その1章の初めから、おおまかなキーワードを拾いながら、おさらいをした部分もあったんですけど、・・・その創世記1章から4章までやった、その聖書の初めのボタンが、とっても大切。聖書を初めから読んでいても、初めのボタンがちょっとずつ違っていたら、後の方まで、どうもスッキリしていきません。モヤモヤします。ですから、今日から、本に入ると言ったんですけど、この第5クール目は、その創世記1章から4章の初めのボタンを大切に思い出しながら、本に入っていきたいと思っています。今までは、本の1ページ、1ページを順番に、細かく読んで、そして、説明してきたように思います。けれども、第5クールでは、ちょっと、順番を入れ替えてでも、私達に今必要な、大切な順序で、進めていきたいと思っています。だから、ちょっと、本の順番通りに、読んでいけないところがありますけれど、ご了解下さい。16:26.39

それで、今回の、創世記1章から4章のところ、とくに馴染んで頂きたかったのは、創世記1章と2章、所謂、3章のあの事件がある前に、神様がどんなおつもりで、どんな心で、我々を造ったのか、人を造ったのか、というところです。それを見てきたんです。

アダムに罪が入ると言われている3章の前に、『初めに造られたアダムの姿』というのは、大切ですよということです。我々とはかく、聞いてきませんでしたか？人間は罪人ですから、アダムが罪を犯したのために、私達子孫は、全部罪を背負い、滅びの中に向かっていくんだという、そういうふう聞いてきたと思います。それで、多くの方々はそう語ります。けれど、神様が『アダムを初めに造った姿』、そこに、大切な神様の人に対する思いがあるということです。それはどんな？と言ったら、いいですか？それは、『神の似姿に造った』ということです。これをその通り聞いて、また何回読んでも、「ああ、そうなんだ、神様の似姿なんだ」と、軽く通り過ぎて来ませんでしたか？『神の似姿に造った』というこれはね、物凄いことなんです。

『神の似姿に自分が造られた』という、イメージを持っていますか？自分に対して。「え？あなたは、神の似姿？」(笑) 原点はね、『始めのアダム』は、『神の似姿』です。じゃあ、あなたもその子孫として、ずうーっと生まれてきたんだけど、あなたの初めの初めは？『神の似姿』があったわけでしょ。それで、「もう、あなたは、『神の似姿』ではありません」と、聖書は宣言していますか？それもないよね。神の似姿に我々は造られたという、『始めのアダム』なんです。そして、造ってどうさせようとしたんですか？全てのものを支配し、治めさせようとしたんです。これってどうですか。つまり、神様は、自分が造った被造物、すべてのものを、神様が愛し、神様が手を施し、そして、神様がその子孫に、神様が手を加えられる。その働きをしてくれ

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

るパートナーとして、人を造った。凄い得点があるよね、コレって。物凄い、人間に対する任命と信頼でしょ。
ね。21:50.85

それから、2章に入ったら、アダムを造った時に、ちりから造って、[いのちの息をアダムの鼻に吹き入れられた。それでアダムは、生きたものとなった]というわけです。だけど、おかしくありませんか？他の動物たちも造られて生きていたのに、・・・『造られた』というだけで、『生きていた』のに、人間だけは[造って、いのちの生息を吹き入れられて、『生きたもの』となった]ということは、その人間が、[生きたものとなった]という、その表現の中には、何が込められていると思いますか？22:46.74

動物も『生きたもの』なんです。でも、動物や鳥やそういうものには、そこまで、神様は何にも言ってない。だけど、人間には、[いのちの息を吹き入れて、『生きたもの』となった]ということは、何ですか？神様って、手や足や筋肉を持っているお方じゃないでしょ。神様は、目に見えません。そう言う意味では神様は、霊です。だから、人間がね、動物には言われていない『生きたもの』となったと、わざわざ言われるということは、神様に対して、人間は『生きたもの』となったんです。もっと言葉を変えていうならば、神様が望まれる『三位一体の生きた関係性』、その関係性を人と神とは、持つようになった。そこに『生きた』という言葉が、有効に使われる。『いのちがある』ということ。神様と人間は、それゆえに、ものすごく関係性が有益で、生きていて、向き合っている。だから、神様はアダム、・・・アダムというのは、男も女も中にいるのよ。あとで男にも女にも後で造るんだけど・・・、神様はそのアダムに向かって、[あなたは、ひとりでいるのはよくない。あなたに向き合う（真っ向から向き合う）、人を造ろう]と言って、二つに分けたわけでしょ。

それは、二つに分けられた人が、二人が、同じ関係性を生きる。『男は女に対して、生きたものであった。女は男に対して生きたものであった。』というものとして、その関係性の中で、天の被造物を愛して治めることが出来るわけよ。ところが、その片方に、攻撃がやってきて、誘惑がやってきて、・・・何を誘惑したかと言うと、神様と人との間のその関係性を、『生きたいのちの関係性』を壊すために、そこに楔を打ち込むために、巧妙な言葉で語りかけてやってきたわけでしょ。26：58.40

「神様は、本当に言われたんですか？全部食べてはならないなんて」と。この質問をどう思いますか？
前々から、私が言っていることを覚えている方は、ぴんとくると思いますけれど。「すべてのものを食べてはいけないと、言われたのか？」と、蛇が、頭（最初）に、それを問いかけたのは、いいですか？“善悪の知識の木の実”を食べるなどというのは、一本の、中央の、一本だけの、この木を、独特に言われたのか？ということに、幅を持たせます。つまり、園のすべての木を、人間は問われているんですか？『（園の）すべての食べて良い木を、いのちの木の実として食べるのか、それとも、善悪を知る木の実として食べるのか』という、暗黙の・・・そこに、神の心がある。それを象徴して、善悪の木の実、いのちの木の実、（があり、）『善悪の木の実は、食べてはならない』と言いました。28:35.20

そこをもっと言おうと思えば、ヘブライ語の原文から、説明できるんですけど、今は、言いませんけど、もし、ここを突っ込んで聞きたいという方は、私に電話をして下さい。28:51.53

だから、蛇はね、初めの言葉に、「すべて食べては、いけないと神は、言ったのか」と、全ての木を対象としてもってきたんです。そうすると女は慌てて、「いえいえ、すべての木のみ実は食べて良いのですが、この1本だけダメだと言われた。食べたら死ぬかもしれない」と言った。蛇は「いえ、死にません」、その次に蛇は言いました。「神は知っているんですよ。あなたは神の心を知らないんですよ。私は知っていますよ。神様ね、こうこう、こういう方ですよ」そういう言い方をするんです。

そうすると、女にとっては、人にとっては、「えー?!」と、私と神様の『向き合った関係』の中に、「え?! 神様って、そんな人だったんですか? そうなんですか?」という驚きがある。こっちの方が、我々一般の人間にとっては、慣れ親しんだよくある反応ではないですか? 「え?! お父さんって、・・・」「え?! あの人って、・・・」という『私とあなた』という『我と汝』の関係ではなく、私と彼、私とあの人、『私とそれ』になっていくんです。この関係が、しみじみ、うまく浸透していくんです。31:18.90

〈善悪の知識の木の実を食べたか、食べなかったか〉という、そのことに話が象徴的にもっていかれているけれど、その奥にあるものは、〈食べたか、食べてないか〉と言うよりも、食べてしまうに至った、その神に対する関係性のしくじりがあるんです。

だから、先程から言っている『初めのアダム』と言うのは、じゃあ、そういうことになる前のアダムというのは、きっと素晴らしいよね。〈ウキウキ、しみじみ、神と暮らすことができる〉という、『その初めに造られたアダムの姿』というものを、大切にするか、しないか。それが重要です。32:43.16

私たちは、のちに救われて、もう一度罪のない状態にされるんだけど、されたらそれで終わりですか?・・・違うでしょ。神様は天地創造を造って、人を造って、その後に1番最後、6日間、7日間が終わった創造の最後のことばに、『造るために』ということばを(さりげなく)ツンと入れられる。神様は、もういっぺん、私たちを神様のパートナーとして、戻して、そこから造り上げたいものがあるんです。あなたがイエスにあって、神の国に戻ったとしたら、「戻って万々歳。はいこれで終わりです」ではなくて、戻って、さあ、これから、一緒にあなたと共に造り上げたいものがあるんです。そういう枠組みを話してきました。34:05.07

それで、今日は、そこから、キングダムセミナーの本論の大切なところに入ろうとしています。これまで私が何回も言っている神様との関係、『わたしとあなた』という、対面した生き生きとした、ドキドキとした、『生きた関係性』というものを私たちは、もう長い人生の中で、その感覚が鈍化してしまうことがある。「そう言われても・・・」『私とそれ』、『私と彼』の関係しか、自分の肌感覚にないんです。

あの生まれてもないよちよち歩きの子供を想像できますか? 自分のそんな頃っていうのはもう忘れただろうけれど、周りを見てですよ。そんな子供をじっと観察してみたら、どうですか? 彼らは生まれて目が見えるようになってから、見えるのは、母親の顔。見えるのは、自分のくるまったもの、周りの情景。でも、赤ちゃんは、幼子はそれを、科学的にあれこれ分析できません。見える人は全部私。見えるものも、全部自分と同じ

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

ように見る。『自他の分別の考え方』がありません。お母さんからぬいぐるみの小さなお人形をもらったら、それを抱きしめて、もう、それと私の世界よ。ぬいぐるみと私の世界よ。もう生き生きと、どっちも自分。だからぬいぐるみに慣れ親しんで、自分の体のようにになったら、離されたら泣きます。それくらい、全部見えるもの、触れるものが、もう自分と一体です。

そういう風に我々も育ってきたんだよね。そういう中でいたんだよね。だけど、だんだんと物心ついて意識が発達して、自我が目覚めて、「これはこれ、私は私よ」と、「あの人、この人と私よ」と、だんだんと認識ができてきて、『私とそれ』と言う関係性に芽生えて、わかってくる。私とこの人、あの人と言うふうに、だんだんと芽生えて、それを『成長』と言うんだけど、私とお母さん、私とお父さんという、『絶対信頼の関係性』です。そして、私とお兄さん、お姉さん弟、妹、と言う関係性の中で、育っていくんだけど、やっぱり親だって誰だって、完全じゃないからね。神様のように愛に満ちていると言うわけにはいかない。みんな自分の中で、まごまごして、てこずっているものを持っている。だからそういう軋轢（あつれき）がぶつかって、誰でもね、心に痛みを持って大きくなる。多かれ少なかれ、大きくなる。だから、それにさいなまれて、苦しむようになる。もう、『初めのアダム』のその感覚と言うのは、もうどこへ行ったやら、という具合に苦しい。生きていかなければならないから。誰かと仕事をし、誰かと家庭を築いたり、誰かと、友達と、関係を築いていくんだけど、ものすごく辛い。お互いがそうだから、みんな・・・そうですね。

39 : 27.64

実は何を言いましょう。私自身も家庭の中で、色々ものがいて葛藤がありました。ところが前にも言いましたが、・・・実は、これは私の経験、体験なんですけれど、10代の終わり頃、17才の時だった。なんだかんだとありましたが、・・・まあ普通の高校生だったんですけれど、ある日、夏休みに男友達4人集まって、みんなウロウロして何もしてないんです。だから、「キャンプに行こうぜ」と言って、瀬戸内海の小さな島に、みんなリュックとテントを担いでキャンプに行ったんです。で、キャンプに行った時に、高校生の男4人ですから、もう、したい放題遊び呆けて、朝から晩まで夜中まで。で、島の奥の反対側の向こうに小さな売店が1個あるだけで、そこまで買いに行って、それはもう、飲んだり食ったりです。それでね、遊びほうけて、楽しいっちゃあ、楽しいんだけど、最終の夜になって、みんなで海岸で、岩の上に座って足を海につけて、夜中、ジャブジャブしながら喋っていて、「もう寝るわー」って言って、1人、2人が寝初めて、私1人残ったんです。

海岸で。夜中ですよ。で、その時に、心から自分自身で、もう虚しくなった。いっぱい楽しもうと思って、こうやってきたのになんも面白くないんです。カッコいい言葉で言えば“生きていることが虚しい”と。どういふことでしょうかね、本当につまらなくなってるね、なんでしょうかね、急にあんな気持ちになったのか、今でも不思議に思うんですけれど、楽しいことがいっぱいあって、やりたいことがいっぱいある年頃じゃないですか、大体。それなのにものすごくつまらなくて、虚しくて、悲しくて、（あーあ、どうしたらいいんだろう）という、つまらない思いでね、私もテントで寝たわけよ。仕方がなく。そしたらね、やっぱり眠れないわけよ。で、テントを2個持って行っていたから2人ずつ寝て、もう一人の彼は、片方のテントの中で寝息を立てているわけよ。

5C 5 回目キングダムセミー20250510

それで、しかたなく私だけ寝袋に入って横になったけど、眠れなくて、・・・起こしてやろうと思ったけれど、(それも意地悪だなあ)と思って、小さな音でトランジスターラジオをかけたんです。小さな声で耳元で。眠れないから。(ラジオも、つまんないなあ)と思って。あの頃、自分も深夜族だったからね。ラジオを、何とはなしにつけて聞いていたら、そこでどういうわけか、意識して、かけてたわけじゃないんだけど、福音放送みたいなのが流れてきて、・・・そんなの深夜にはないよね。ないのに、・・・「聖書の中に、イエス・キリストがこう言っているところがあります」と言ってね、聖書朗読をしているんですよ。聖書があることは知っていましたけれど、私には何もそんな予備知識が無い時ですよ。ちょうど、マタイの福音書のイエス・キリストの『山上の説教』と言われるところを朗々と呼んでいるんです。初めて、私はそういうのを聞いたんです。その聖書朗読を聞いていて、「え？聖書？何？何？」と言って・・・たちまち耳に残って、引きつけられたんです。45：15.09

その箇所を、けっこう長く読んでいて、今思えば、マタイの6章のところだったんだけど、[自分のために、地上に宝を蓄えるのは、やめなさい]と。[あなたの体の明かりは目です]と。[誰も二人の主人に仕えることはできない]と。こう、ずうーっと朗読しているんですよ。[ですから、わたしはあなた方に言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また体のことで何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物より大切なもの。体は、着物よりも大切なものではありませんか。空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなた方の天の父が、これを養ってくださっているのです。あなたは、それよりももっと優れたものではありませんか、あなた方のうち、誰が心配したからとて、少しでも自分のいのちを延ばすことができますか？]云々と。[だから明日の心配は無用です。明日のことは明日が心配します]・・・と、このあたりをね、ずうーっと読んでいたわけ。でね、初めて聞いて、・・・今まで、こういうことを聞いたことがなかったから、自分に衝撃となって、余計に寝れなくなって、・・・(へえー！)と思って、そして、もう仕方がないから、(テントの中で、ごろっとしているのなあ)と思って、テントのファスナーをパーっと開けて、夜中、外へ出たんです。47：20.81

そしたら、その時ですよ。海岸でテントを張っていて、後ろに裏山がバーっとそびえていて、そんな状況から、そのテントから、しゃがんだ状態で、パッと、起き上がった瞬間にね、空の満天の星と海の水が、そして裏の山の木が、もう、自分の、私自身の上に、わぁーと、こう迫り出して、のしかかってくるのを感じたわけ。「ああ、急に狭いところから広いところに出たから、きっと、そういうふうに錯覚したんだろう」と、後になってから、思ったよ。・・・でも、その時はね、その海の水と砂と満天の星とが、うわぁーと、自分におしかぶるように、感じたんです。その時の私は、「わぁー」と、声をだしたか出さないか、もう、びっくりして、本当に驚いた。48:41.80

その一瞬に、私の心の内に、(うわーっ)と出てきたのが、《天の父がいる》って、いうことよ。《天の父がこれを養って下さっている》という、ラジオから聞いた、その朗読の言葉が残っていて、それで思ったんです。《そうか、天の父がいるんだ！》と。頭で悟ったというより、もう、自分の内側にずっと、染み渡った。完全に理性的じゃあないわけよ。《そうか、天の父がいるんだ！》という、その驚きはね、所謂、追せかぶる感じ、―――自分の上に“おおいかぶさってくる”と言ったけど、何も恐ろしい感覚じゃないのよ。恐怖じゃあないの

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

よ。もの凄く優しく、暖かく、まるで私をその大自然が包み込んでくれるような、そんな感じがあったわけ。
そして、〈天の父がいたんだ！そうか、それを知らなかった。〉と、思ったわけ。それを今の言葉で言えば、私
は、その瞬間に信仰が生まれたんです。だから、誰から聞いたんじゃないんです。教会に行ったんじゃないん
 です。イエス様が語った聖書の言葉を、耳に聞いただけで、そして、大自然に出ただけで、もう、（そうなん
だ！）と。さっきまでのあのつまらない、虚しい気持ちが、もうすっかり吹き飛んで、嬉しかった！嬉し
かったです。 51:18.17

私は、長男です。私の父親も長男です。幼い頃から、男と男親というのは、難しいところがあるんですよ。
 ね、思いませんか？みなさんは、女性が多いから分かりませんが、・・・女と女親はどうか知りませんが、・・・
 あのね、もの凄く、父親の心の傷を、父親は息子の中に見るんです。だから、息子を見ると、自分の嫌なところ
 を見てとるといふところがあるのよ。だからね、どーもね、しっくりいかなかった、ずーっと。だからね、
 その辺のわだかまりと、虚しさ、ギスギス感というものがずっとあって、・・・うん。だけど、その時の、
『天の父がいる』という『天の父』は、全く、違ったんです。だから、私は『天の父』というのを知って、そ
 れから、自分の肉の父親とのわだかまり、傷というものに対して、それ以後、だんだんと引きずらなくなった。
 時間がかかったけど、それをきっかけに。だから、肉の父親が『天の父親』にもう変わったんです。はい。
 53:09.28

〔人は、父と母と離れて、二人は一体となる〕と言っているけど、人は（肉の）父と母を離れて、天の父
と親と一緒にいる。そして、新しい人生を歩み出すことができる。だから、天の父の『我と汝』の関係と
いうのは、とても大きなことなんです。本当に、自分のもやもや、手を塞いでくる、手を縛ってくるもの
を振り捨てて、天の父に手を伸ばして、「私はあなたと歩みたい」「もう私は、あなたと向き合いたいのだ」
と、心に決めて、向き合っていく時に、主は喜んで向き合ってくれる。

54:23:32

だけど、私達はいつも、「傷があってもモヤモヤするけれど、昔の関係性にしがみついていた」という・・・
 「それを離したいんだけど、傷があるんだけど、・・・それを離しちゃったら、自分がどうなるかわからない」
 と思って、離せないでいることが多い。でも、天の父は、知っているんです。『あなた』という『初めのア
ダム』を。そして、求めているんです。 55:06.45

そういう、経験をね、しました。その後、私は、誘われて、この神様、イエス・キリストの話が聞けるとい
 うので、近くの教会に初めて行ったんです。行った時にはもう、ほとんど、信じていました。“もう、未信者で
 はありません”みたいな顔をして。(笑)。初めて教会に行って、聞いていたんです。ところが、行っていると、
 話を聞きながら、聖書がいっぱい読めるじゃないですか。そうすると、・・・神様の、天の父の広さ高さ深さ
聖さ、そういうものをしみじみ、自分の中に、染み通らせていく内に、今度はね、自分の中の、それこそ、傷
と汚れと不義、そういうものが、目についてきたんです。

神様はいいよ、包んでくれて。でも、自分自身は、この神様に対して、〈そんなに、相応しいような人間か？〉

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

という問いかけが出てきて、よく、よく、それを自分の中で吟味していくと、〈自分は、もう、たいしたことねえな、本当に。・・・父を憎み、母に対して悲しませる言葉をかけ、兄弟に対しても・・・と、そう思いながら、自分は神様がどうの、こうのと、言い始めているという。で、いったいこの自分というのは、いったい何なのか、・・・〉と、思ったわけ。そう、思ってきたわけ。だけど、段々、嬉しいんだけど、息苦しい、・・・
というのが分かってきて、その時に、初めて、イエス・キリストが何のために、やって来て、十字架で血を流したかということがわかって来た。 57:47.77

それで、教会の帰りに、田んぼの道を自転車でやってくると、雨が降って来て、もう、そういう イエス様の愛 というものと、イエス様の十字架と、初めて、天の父のあの愛 というものが、二つがね、“びたー”っと、重なって見えて来たんです。《ああ、そうか、天の父というのは、あのイエス様の十字架に現れているんだ！そうだったのか！》と、その時、初めて、天の父と十字架が分かった。 雨の中、自転車をもう漕げなくて、涙流して、自転車を放り出して、あぜ道にもう座り込んで、涙流しました、私。そういう経験があります。イエス様は、そんなことを、全部分かって、あの“山上の水訓”を語られていたんだなって、・・・理解していきました。 59:24.43

だから、何が言いたいかというと、(ホワイトボードに書かれる)・・・今までよく何回も書きました、『神様と私』という『我と汝』の関係、これって、みなさんね、神様にとっては、『二人の世界』なんです。ここ、二人の世界なんです。でも、ご存知のように聖書の初めから、どうやら、第三者が、居ますよと。第三者が居ますよというのは、臭うけれど、神様の言葉の中では、語りの中では、『二人の世界』なんです。

何で？“サタン”というものは、“蛇”が象徴しているけれど、そこだけ出て、しかも“蛇”として書かれているけれど、“サタン”に対する対処というのを、しっかり神様は、押さえているけど、『神と私』、『あなたとわたし』という『我と汝』の中では、ここを、殆ど出しません。なぜならば、あなたとサタンがどうやら、こうやらということよりも、先に、『神様とあなた』という、『我と汝』の二人の世界を築きたいからです。こっちが先なんです。ね。私達はすぐ、まあ、今は新訳だから当然だけど、悪霊が、サタンが、どうのこうのと言いますけれどね、悪霊が、サタンが・・・ということが、聖書の初めから、ここは、問題じゃあないんです。それよりも、神様とあなたとの関係性が問題なんです。いいですね。 1:02:25.64

そこで、この関係性を築くという、『初めのアダム』のこの在り方、実態に、サタンが楔を打ち込んできた、誘惑してきて、あんなったわけなんです。で、その時に神様は、どうしたか、私達は、サタンの中に、誘惑されて、支配の中にも入れられてしまったけれど、神様は、サタンに対して、「わたしは、お前と女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫のとの間に、敵意を置く」と言われた。で、「彼(その女の末、子孫)は、お前の頭を砕き、おまえは、彼のかかとかみつく」と言ったよね。どうやって、砕くの？女の末が、サタンの頭を砕くって言ったけど、どうやって砕くの？『原始福音』(創世記 3:15)とされているこの言葉が、重要なんです。 1:03:47.01

私たちが罪を犯したのに、神様は私たちをどう思ったか？よく“私たちの罪のため”に、“私たちの罪のために、イエス様は十字架にかけられました”とよく聞くでしょ。“あなたの罪”のためにイエス様は十字架にかか

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

ったんですよ。これ、どういうことですか？それで、イエスが十字架にかかったら、私たちが受ける罰の代わりにイエス様が罰を受けてくださった。こういうことですか？そう聞くよね。“人間が全部、地獄の刑罰を受けるのを免れるために、イエス様が代わりにそうしてくださった”と言うけどさあこれは、この言い方、間違いじゃないけど、・・・いい？サタンと神様との関係で、サタンは、初めから神の位を狙っていたんですよ。ところがそれができるわけではない。しかも、神様が人間に神様の權威を与えて、力を与えて、治めさせようとしたわけよ。そうするとサタンにとっては、誰を自分の支配下にしたら、サタンは勝利するんですか？人間でしょう。だから、人間のところにやってきたんです。で、騙して人間の支配下に置いたんです。いいですね。

1:06.06.91

サタンがイエス様を誘惑した時にも「私を拝みなさい」と。「そしたら、すべてこれらのものは、あなたのものにして上げます」つまり、サタンにしたら、イエス様、神の御子、女の子孫が来たんだったら、今度は人間を支配下にしなければ、その神のひとり子、女の子孫を自分のものにしたら完全に勝利じゃないですか。もう全部が我がものじゃないですか。ね。それで、サタンは、あらゆる手法を通して、支配下の人間の魂をいじくって、イエス・キリストをいじめにかかると、捉えにかかると、そして十字架にかけて殺そうとする。そして完全に勝利だと、そういうことですよ。そのイエスが十字架にかかって息、絶えた。よし、完全に我がものだというので、拍手、じゃないですか。その時の人類は、真っ暗。だから、[暗闇になった]と書いてある。真っ暗だったんです。1:07:47.43

でも、イエス様の心は、いや嫌、渋々、「わたし、十字架にかかって死にます」という、態度じゃなかったでしょ。イエス様は自分で、喜んで十字架にかけられた。喜び勇んで。そのイエス様の心は、神様から見放されたような感じだけれど、でもイエス様は神様を見放してはいない。ずっと向き合っていた。その献身と犠牲の心のゆえに、神様は、イエス様を突き離れたままではいらなかった。イエス様は死んだけど、サタンはイエス様の心と聖さと正しさというもののの中に、イエス様のその信仰の中に、サタンは自分と同調するものは何もないです。殺したけど、イエス様とサタンとシンクロするものは、何もないんです。だから、イエス様を父なる神は、元に戻して甦えらせることができた。

だから、「イエス様を手に入れたから、もういい、これで良し！」と思ったサタンは、実はもう、完全に手元から失ってしまっていたんです。何もかもを。そのイエス様と向き合い、ひとつとなる人々者には、信者さんたちには、もう、手を出せない。だからサタンは、もう全部失ってしまった。完全に負けてしまったということになっている。1:09:04.20

そのイエス様が十字架にかかった時に、イエス様が、十字架上で語った言葉がいくつかあるでしょ。有名な『十字架上のイエスの言葉』という説教を1回か2回くらい位聞いたことがあるでしょ。その中の一つには、これですよ、マタイの27章に書いてある『我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか？』『エリー、エリー、レエマ、サバクタンニ』という、有名な言葉ですけど、・・・この言葉って、イエス様が神様から突き放されて、嘆いておられる言葉なんじゃないですか？1:10:37.72

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

私ね、学生の時、ある宗教団体の折伏（しゃくぶく）の部屋に間違っって入っちゃって、迷っって入っって、座っっていたら、たちまち囲まれて、「お前の宗教はー？」と問われて、「はい、クリスチャンです」と言ったら、たちまち周りを囲まれて、「話聞けよ」と。「何ですか？」と言ったら、「お前は、キリストを信じているのか？」「はい」「キリストって、神様に見放されて、十字架で死んだんだぞ。そんなの信じて、どうすんだ」と、言うんですよ。本当に。私ね、ちょっと、知っていたもんですから、「いやいや、そうじゃないって、あの『我が神、我が神、どうしてあなたはわたしをお見捨てになったんですか？』と言われたのは、そういう意味じゃないですよ」と、言っただけで、承知しないんです。「聖書にそう書いてあるんだよ。オレは、読んだことがあるんだぞ」と言うからさ、「もう、やめて下さいよ」と言って、私はもう、議論するのも嫌になって、席を外して帰って来たことがあったんです。

世間では、この言葉をそういうふうにとる。本当は、何か、知っているでしょう。聞いたことあるでしょう。あのね、例えば、昔、この当時、ユダヤの人達は、詩篇というものをほぼ暗誦するぐらいに暗誦し、聖書のどこでもそうですよ。「幸いなることよ」と聞いただけで、もう、その一言を聞いただけで、詩篇の一篇だと分かるんです。もう、全部覚えてるから、詩篇の何篇、何編なんて、数字がありませんから。数字なかったら、どうやって覚えるの？初めの言葉だけで、その詩篇を指すんです。「主は、我が牧者」と言えば、何編ですか？「23 編」そうよ、そうよ、そういう感じ。だから、「我が神、我が神」と言えば、聞いただけで、「どうしてわたしをお見捨てになるんですか？」って、もう、ぴんと来るんです。イエス様は、ここで、十字架上で、「神様は、わたしを十字架上で見捨てやがって・・・」って、言いたかったんじゃないくて、イエス様は、「我が神、我が神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか？」という、詩篇を読みたかった。ね、この当時のユダヤの人達にとっては、こらは、当たり前なんです。1:13:52.82

詩篇の 22 編を開いてみて下さい。LINE のみなさん、念の為に、お手元に、聖書があれば、それを開いていただければ、それでいいだけの話なんですけど。会場で配っているプリントを今 LINE にアップしますね。まあ、聖書を見ていただければ良いんですけど、・・・実は、詩篇の 22 編なんです。イエス様は、十字架の上で、22 編を示した。読み上げたかったんです。1:15:41.48

では、ここで、このプリント、3 枚に分けて書いていますけれど、初め 1 節から 5 節までを見てみましょう。[我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか。遠く離れて、私をお救いにならないのですか。わたしのうめきのことばにも。我が神、昼、私は呼びます。しかし、あなたはお答えになりません。夜も、私は黙っていられません。けれどもあなたは聖であられ、イスラエルの賛美を住まいとしておられます。私たちの先祖は、あなたに信頼しました。彼らは信頼し、あなたは彼らを助け出されました。彼らは、あなたに叫び、彼らは助け出されました。彼らは、あなたに信頼し、彼らは恥をみませんでした。]

色をつけているところは、イエス様の叫びの中で、『我が神』、『あなた』という、イエス様がどんなに真剣に必死に神に叫んで、向き合っておられるのかが、読み取れます。あなた、あなた、あなた、『汝への叫び』です。ね、強力な汝への叫びです。はい、その後、ずーっと、さっとみていきたいんですけど ちょっと、転送している時間もありますから、ちょっと、休憩しましょう。

後半 00:25.52

はい、続きを始めましょう。

前半でも言いましたように、イエス様が十字架上で話したかった、言いたかった、告白したかった、それが、詩篇の 22 篇ダビデの賛歌ということでした。[我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか] という言葉を聞いただけで、旧約聖書の詩篇に馴染んでいる民は、ここを聞いただけで、もうピーンと来るわけです。「ああ、そういうことか」って、じゃあ、どういうことかって、私達は、やっぱり詩篇の 22 篇としっかり向き合って、それを読んでみないと分かりません。けど、31 節あるこの長い詩篇の中を私達が、じゃあ、一瞬にして理解出来るのかい、というとそれもちょっと無理っぽい話ではあるんですけど、でも、肝心な要点を目を通して見ていきましょう。1:50.49

1 節から 5 節まで、イエス様は、父なる神に対して、生きていました。父なる神とともに生きており、父なる神のことを語っていました。それほど、一つだったんです。そうでしょ。イエス様は福音書で何度もそう言っている。だから、この苦しみの極致の中で、『我が神、我が神、我が神』・・・『あなた』という汝を呼び、けれども、今度は自分は、どんな状態かということも、率直に叫んでいるんです。[けれども、あなたは聖であられ、・・・私達の先祖は、信頼しました。・・・あなたは、彼らを助け出されました。彼らは、・・・助け出されました。彼らは、・・・恥をみませんでした]『切実な汝への叫び』というものです。

6 節 7 節 8 節、今度は、[しかし、私は虫けらです。人間ではもうありません。人にそしられ、さげすまれ、私を見るものはみな、あざけります。彼らは口をとがらせ、頭を振ります]・・・ここで、口をとがらせというのはね、皆さん、あのね、この表現では、伝わりにくいんですけど、ちょっと、こっちを見て下さい。こういうふうに、口をとがらせてね、・・・コレ、さげすんでるってことでしょ。ふっと口を尖らせて横っちょ向いてごらん下さいよ、人と向き合ってて、・・・どんな気がしますか？04:07.50

それから、8 節のカッコ(「」)は、周りの人間が言っている言葉として、書かれています。【【主】に身を任せてみよ。神が助け出したら良い。神に助け出させてみよ。神のお気に入りなんだったら】と、いうことですよ。見捨てられた姿をもう、ありありと、イエス様はコレを取り上げているんです。これは、実は、昔、ダビデの経験だったわけ。ダビデの作った詩篇だったわけ。ダビデも非常に、こういう状況があったからです。それは、読んでください。

そして、9 節、[しかし、あなたは]・・・6 節は[しかし、私は]でした。9 節は[しかし、あなたは、][私を母の胎から取り出した方。母の乳房に抛り頼ませた方。] 10 節[生まれる前から、私はあなたにゆだねられました]←生まれる前からよ。[母の胎にいた時から、あなたは、私の神です]←ダビデの言葉なりの『初めのアダム』を言っている。私が造られる前から、天地が造られる前から、あなたは私をご存知のはず。という、初めの状態に、思いを寄せ、それをしっかり刻んでいるんです。6:02.48

そして、次、11 節から 18 節まで、長いです。ここでまた、切実と、[どうか遠く離れないで、苦しみが近

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

づいています。助けるものがないのです。数多い雄牛が、私を取り囲み、パシヤンの強いものが、私を囲みました。彼らは私に向かって、その口を開きました。引き裂き、ほえたける獅子のように] ←ダビデの経験。みなさんもこれまで、このような経験がありましたか？自分の生きてきた中で、よく似たような道を通った人は、頻繁にあります。誰でもあります。6:58.39

14 節～18 節まで [私は水のように注ぎ出され、私の骨々はみな、外れました。私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。私の力は、土器のかけらのように、かわききり、私の舌は、上顎にくっついていきます。あなたは私を死のチリの上に置かれます。犬どもが私を取り囲み、悪者どもの群れが、私を取り巻き、私の手足を引き裂きました。私は、私の骨を、みな数えることができます。] ←もう、こうなったら、死んじゃってますよ。[彼らは私をながめ、私を見ています。彼らは私の着物を互いに分け合い、私の一つの着物を、くじ引きにします] 07:50.19

自分のね、悲惨な環境、状況を切実に語っています。なにも、齒を食いしばって我慢したというよりも、神様の前に、見捨てられた、みんなに冷たくあしらわれたその姿を、切実に語っているんです。でも、これで終わるかという、この状況を語った後で、19 節、今度また『汝』を呼びます。【主】よ。←この主に【】（カッコ）がついているのは、単に、主人よ、という意味じゃあないよ。神様の固有名詞をここで読んでいるということ。8：52.59

19 節～21 節まで [【主】よ。あなたは、遠く離れないで下さい。私の力よ、急いで私を助けてください。私の魂を剣から救い出してください。私のいのちを、犬の手から。私を救ってください。獅子の口から、野牛の角から] ここで、また深い『汝』への叫びをあげるんです。純粋な切実な隠すことのない思いを吐露していきます。

その次、21 節の続きから、24 節まで [あなたは私に答えてくださいます] ←今度はここから語り口調が変わってきます。[私は、御名を私の兄弟たちに語り告げ、会衆の中で、あなたを賛美しましょう。【主】を恐れる人々よ。主を賛美せよ] ←みなさん、ここから、ガチッと心が変わったと思いませんか？[ヤコブのすべての末よ、主を崇めよ。イスラエルの全ての末よ、主の前におののけ。まことに、主は悩む者の悩みをさげすむことなく、いとうことなく、御顔を隠されもしなかった。むしろ、彼が助けを呼び求めたとき、聞いてくださった]『汝』に叫び、『汝』に叫び求めて、で、自分の窮状を切実に訴えて、『汝』に叫んだ後、シュッと心を引き締めて、この 22.23.24 節には、もう、口調が変わっています。それは、『ダビデの決意と宣言』を、ここに持ってきます。11：07.57

みなさん、私達が『神に祈る』という祈りは、どんな祈りですか？これまで、自分が苦しい時があったでしょ。自分がどうしようもなく、辛い時に神に祈ります。確かに、「主よ、助けて下さい」と祈る。自分の窮状を神に語ります。「どうか、お願いします」で、終わる？終わってしまいませんか？「イエス様の御名によって祈ります」、「・・・お願いします」と、・・・そうして、「私、祈りました」という感じではないですか？

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

だけど、ダビデの祈りは、この状況のなかにあってよ、『ダビデの決意と宣言』を持って来るんです。それで、それだけでは終わらない。25 節、「大会衆の中での私の賛美は、あなたからのものです」ここに、色をつけてありますけれど、なんでか、分かる？普通は、私の賛美は、私からのものではないの？それを、私の賛美は、『あなたから』きたものですと書いてある。あなたが、私の内に、この状況の中でも、歌を与えてくれました。この賛美は、私の叫びに対して、『神様の応答』が、そこにあった。その神様の応答に対する、また『私からの応答』です。もう、そこには、『我と汝』の美しい、確実な応答性があるということを持ってきている。

そして、次、下線引いているけど、25 節 「私は主を恐れる人々の前で私の誓いを果たします」・・・ここは、共同体の群れの中での私の、私に与えられた神の使命を意識している。これ、一つの祈りの中で、ですよ。最後に。13：59.48

26、27 節、「悩むものは、食べて、満ち足り、主を尋ね求める人々は、【主】を賛美しましょう」・・・完全に応答性の世界というの、我々の悩む現状、悲惨な現状、苦しい現状に、左右される事はありません。・・・「あなた方の心が、いつまでも生きるように」・・・一番苦しいのは自分なのに、周りの共同体に対して祝福している。「地の果て果てもみな、思い起こし、【主】に帰ってくるでしょう。また、国々の民もみな、あなたの御前で伏し拝みましょう。」・・・地の果て果てまでですよ。イスラエルとか、ダビデ王国とか、そんなこと飛び超えて、主に帰ってくる。なんと、この状況でこれを言うか、という、宣言になっています。15:33.23

28、29 節 「まことに王権は【主】のもの。主は、国々を統べ治めておられる」「地の裕福なもののみな、食べて伏し拝み、ちりにくだる者もみな、主の御前に、ひれ伏す。おのれのいのちを保つことのできない人も。」・・・なんですかコレ。裕福なもののみな、食べて、伏し拝み、生きているものも、生きていけるものも、伏し拝み、『ちりに下る』というの、本当に貧しいもの、滅びゆくもの、そういう領域も主の前にひれ伏すという意味です。『おのれのいのちさえも保つことができない人も』というの、ダビデ自身のことも、もう殺されそうだったから、そして、何よりも、22 編を選んだイエス様自身も、この通りの状況です。16：48.05

30 節 「子孫たちも主に仕え、主のことが、次の世代に語り告げられよう。彼らは来て、主のなされた義を、生まれてくる民に告げ知らせよう。」・・・この最後、『我と汝』の共同体性の完成と勝利。これ、1 節から前半に、書かれている同じ人が、語ることでか。つまり、ダビデの経験を預言的言葉として、イエス様が、また、語っているわけです。私の窮状は、息絶え絶え、もう、こういう状況だ。けれども、人々は、「こいつは神に見捨てられた」と言って、あざけるけれど、イエス様は、決して神様と向き合い、『我と汝』の関係を辞めなかった。絶対、辞めなかったんです。この状況の中で。だから、同じ十字架にかかっている強盗の人に、「主よ、私を思い出してください」と言った時に、「あなたは今日、わたしと共に、パラダイスにいます」と、言うことができた。18:38.98

『イエス様の十字架』というの、神様に召されて、神様に導かれて、イエス様の使命として、イエス様は、受け入れ難い事だったけれど、『私の願いではなくて、あなたの御心を行わせて下さい』と言って、十字架の

あの『初めのアダム』とエバの失敗以来ね、神様としっかり向き合うことをスポイル（損なう、台無しに）されて、騙されて、『我とそれ』の世界に落ちてしまった人間たちの中で、イエス様は、決して、人々と『我とそれ』の関係を生きることがない。一人ひとりの内に、『我と汝』の生きた関係性を保ち続けたんです。

だから、人間の中で誰ひとり、この状況の中で、イエス様のように、詩篇の 22 編を語るができなかったでしょう。誰も。・・・でもね、神の霊がダビデを捉えて、語らせたこのことばは、イエスは、多くの詩篇の中から、取り上げた。イエス様が、『初めのアダム』とエバが、しくじった、そのしくじりを、もう一度取り返すことのできる『父なる神との関係性』を、やり遂げたんす。私たちにできないことを。イエス様はやり遂げてくださったんです。だから父なる神は、それゆえに、『イエス様との関係性』のゆえに、蘇らせることができたんです。 21:28.18

だから、イエス様は、我々の『信仰の創始者』と言われるんです。本当の神が求めた、父が求めている信仰を成し遂げた方。『造り上げた方』と言われるんです。この真実を、この関係性の真実がエッセンスであり、尊いことなんです。だから、私達が、このイエス様と向き合い、イエス様と絆を結ぶんだったら、私達が手を差し伸べて心に向けて、私達は、イエス様と一つになる。この信仰は、完全に、我々を立ち直らせ、サタンに勝利するんです。

イエス様を十字架につけて、息耐えさせたサタンにとっては、「よっしゃー、やり遂げた！」ということだったでしょう。「ざまー見ろ」と。「これで俺たちの手の内にあるんだと。けど、神様は、イエス様の『我と汝』の関係性のゆえに、イエス様を甦らせることが出来ちゃった。それによってサタンは、せっかく、我ものにしたのに、イエス様は、自分の手元から、父の元に帰って行かれた。もう、サタンの手の内には、何にも残っていません。そのイエス様に結びつくものたちを、全部イエス様の中に入れられた。サタンはもう、負けの負けなんです。これ。 24:06.58

そこで、いいですか？キングダムセミナーの本を手にとって下さい。19 ページを開きましょう。19 ページから、このキングダムセミナーの前半の中では、極めて重要なことを話しています。いいですか？ちょっと、読んでみましょう。

さあ、『主との一致』と言うことについての話に入りますが、最初に質問します。まず考えていただきたいのです。質問はこれです。

- 1、イエス様は今、あなたとどんな関係になりたいと望んでおられると思いますか？
- 2、神様が望んでおられるあなたとの関係とは、どんなものでしょうか？

「イエス様とは兄弟のような関係」「神様とは親子の関係」いう答えがあります。多くのクリスチャンがそのように答えると思うのです。中には、「神様とは友達のように」と言う人もいるのでしょうか。そうです。これ

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

ら全てが正しい答えです。父と子、友、こういった肉親や親友といった関係で確に聖書は教えていますし、私たちもこのように聞いてきました。しかし、これからの時代を歩むためには、聖書が提示している、もう一方の現実的な関係をしっかり受け止める必要があるのです。それはこれまでの教えを否定したり、矛盾したりするものではなく、これまでの本質を汲みだし、『神の国』の柱となる真理です。

さて聖書には、父と子といった表現以外に、もっと根源的で頻繁に出てくる表現が存在します。まずその代表的な数箇所をここに引用します。

「わたしの肉を食べ、私の血を飲む者は、わたしのうちにとどまります。」(ヨハネ 6 ; 56)

「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。・・・人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実をむすびます」(ヨハネ 15 ; 4.5)

「神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。」(1ヨハネ 3 ; 24)

「神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちうちにおられることがわかります。」(1ヨハネ 4 ; 13)

「だれでもイエスを神の子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにいます。」(1ヨハネ 4 ; 15)

「神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。」(1ヨハネ 4 ; 16)

いっぱいあります。でも、そういう言い方だけでなく、20 ページの 1 番下、

「わたしはあなたがたの間に私の住まいを建てよう。・・・わたしはあなたがたの間を歩もう。わたしはあなたがたの神となり、あなたがたは、わたしの民となる。」

(21 ページ)

「あなた方に新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。・・・わたしの霊をあなたがたのうちに授け、・・・あなたがわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」

それから、その下の太い文字のところ。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしも彼のうちにとどまります。」

それから、21 ページ 1 番下の段落の説明ことば、↓

簡単な説明ですが、これが、『あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。』という約束の成就だということが、理解していただけたでしょうか。新約聖書にあるこの『相互内在』のみことばが、聖書全巻を通しての重要な鍵であると、見なさなければなりません。

この相互、互いの中に、互いが存在するという、『相互内在』ということばをちょっと、覚えておいてください。さあ、頭で、「互いが互いの中にいる言われてもねえ。私自身の感覚としてはねえ。」と、言いたくなるかもしれません。聖書全巻を通して、重要な鍵であるとみなさなければ、なりません。もっとも、これまで気にすることなく、読み過ごしていた人々には、多少奇異に思われるかも知れません。事実、これまでの時代、あまり大きく取り上げられることはありませんでした。しかし、この御言葉には、実に深い奥義が込められているのです。 31:19.90

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

22 ページ。

初めに挙げた『相互内在』のみことばには、2つの奥義が提示されています。この2つの奥義の両立が、聖書に貫かれている主との関係性のモチーフです。主との関係性の基本形です。基本的なあり方です。それをここに言い直してみると、次のようになります。右側の（ ）は、黙想の助けとために、私が言い換えたものです。32：08.52

主との一致—— イエスの中にいる私（イエスにゆだねられた私）

〃 —— 私の中にいるイエス（私にゆだねられたイエス）

↑

ここに、『主との一致』には、2つの面があるという、・・・（分かりやすく）分けて書いています。

『イエスの中にいる私』と『私の中にいるイエス』・・・どうですか、これ。32：40.73

さっき、前半のところで、私の高校時代の経験を言いましたよね。あれをね、教会に行くようになって、みんな集まっていた時、「浅原君、あなたの経験をみなさんに証しなさい」と、いう時があって、教会に行ったら、そんな時があるでしょ。みなさんもしましたか？それで、私ね、教会で、その証をみんなに話すことになった時、——その、同じキャンプに行った友達の中に、お母さんがクリスチャンで、小さいときから教会に行っていたという、友達がいるんです。でも、私は、それを後から聞いて、ビックリしたんですけど。で、その彼は別の教会だったんだけど、私がいた教会の集会に、たまたまやってきていて、——そこで、たまたま私が指名されて、言いなさいと言われたから、交わりの時に立って、その証をしたんです。33：54.90

そしたら、彼が、その後、帰る時に、なんと言ったかという、「修ちゃん、ええなあ、お前は——」って言うんです。「何が？」って聞いたら、「そんな経験が出来て・・・」って言うわけ。彼は何が言いたかったかと言うと、「自分は、幼い頃から教会に連れられて行っていて、もう、10代になった。けれども、お母さんのように、しっかり信じて、信仰を持って歩もうという気持ちが湧いてこない」と言うわけよ。ところが、「この前まで、教会にも行ったことのなかったお前が、あのキャンプの時に、そんなことがあったんかー！」と、言うわけ。「ええな——」。ものすごく、羨ましがるんです。分からないでもないよ。そんな気持ちって。「ええな——」と言う、彼の正直な言い方だったと思う。その時、私は、彼の羨む気持ちが分かりながらも、心の中が、モヤモヤーっと、したんです。物凄く。「何を言ってんだー」という、言葉にできないモヤモヤ感が、その時湧いて、ずうーっと考え続けたんです。35：44.47

なんで、モヤモヤしたと思いますか？それね、・・・《あつ、天の父がいる》、《天の父は、こういう方なんだ》という、私の受けた深い印象は、あの場で、私だけひとりのものだと思えなかったからなんです。《あつ、そうか、この、自然の中の全ての人間を、神は父として、このように包んでいるんだ》という、そこまで思っていたから、ショックというか、驚きだったわけ。

それを友人は、「その経験は、お前だけで、そんな事を経験して、さぞ、良かったな」と。「僕には、なんも分かん。神様のことは・・・」と、言いたかったんだと思う。それで、私は何で、モヤモヤしたかと言うと、あの時経験した私の印象と、全然、違う世界がそこにあったから、・・・「何で、そんなことを言うのか」って。

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

「僕が経験した事を言ったけど、その経験は、それは、聞いたお前（友達）もその中にあるじゃんかー！」「僕が経験した事は、お前の経験じゃんか！何でそんなに、お前と僕とを、区別するのか。一緒だろ」と。それが、モヤモヤとしていたわけです。37：57.67

それから、高校の中で彼を誘って、聖書勉強会と名づけて、信仰の学びを始めたんです。勝手に公立高校の中で。・・・あの時代、先生達、何も言わなかったんです。笑。それから、だいぶ経って、その学びの中で彼に、このことをもういっぺん、話したんです。・・・だから、みなさん、どうですか？私の昔の経験の一つを今、時間をとって話しましたけれど、一つの、私のひとつの経験を話しましたけれど、「へー、そんなことあったんだ。良かったですね」と思って、「あなたはあなた、いやー、私はねー」と言って思うんだったら、いいですか？それは、聖書の感性ではないんです。

神様は、アダムの中に、全人類を見ていたんです。同じように、『第二のアダム』である、『信仰を完成したイエス・キリスト』にあなたがつくんだったら、心を向けるんだったら、『イエス様の中のあなた』を、そのように、神様は、あなたを見ておられるんです。イエス・キリストというお方の信仰の完成の中で、中にいる、存在している、置かれている、あなたを、見ているんです。同じ目で。39：50

それなのに、私達は、「イエス様を信じています」と、言いながら、「イエス様の中にはいません。別々です」と勝手に思うんだったら、もったいなさすぎると思いませんか。完全に出来上がっているイエスのその信仰の道を。そこで、「ええなー、お前は・・・」と、言った友達のように、もし我々が言うんだったら、その信仰を成し遂げたイエス様が、どんなに、モヤモヤされると思われますか？モヤモヤ、もやっと。・・・神に造られたあなたがたのために、これを成し遂げたのに、父もわたしを甦らせたのに、あなたは、まだ、わたしの外にいると、いうのですか？！

私達は、もうキリストの中に置かれているんです。ということは、ここに、『主との一致』が、あるんです。

このところは何回もやってきました。もう、5クール目ですから。何回も聞いた人がいると思いますが、・・・何回も聞いていると思いますが、まだ、わざと言って'rendensよ。ね。頭で分かるのと、血と肉とで分かるのとは違いますからね。41:54.65

私ね、夜に公園に、よく主と交わりに行くんです。だから、曇りの日でも雨の日でも、晴れている夜でも、もう、上を見上げれば、そして、公園の木々を見れば、あの時の、17歳の時の感動が、今でも、うあー、っと湧いてくるんです。今でも。だから、「私は、主の中に、主の感動の中にいるんだ」と、そう思えてならないんです。だから、今、この生で語った、この感動と経験は、今、誰のものですか？今、心開いて聞いた、あなたのものなんです。もう、あなたの経験なんです。もう、私の個人の経験ではない。とんでもない。はい。だから、私も人の証や経験を聞いたら、そう、聞きます。「よし、その経験、私のものだ」と。私がした経験じゃあないよ、その証は。けど、「よし、それ、私、貰った！」と言って、もらっちゃうんです。ね、そしたら、ラブラブじゃあないですか。その人と同じ経験しなくたって、「もう、貰った！」と。自分のものなんです。

その原点は、イエス様が、十字架上で成したこの『我と汝』の徹底した告白と、それにとどまらないで、全人類に、全ての民族を含めて、それを解き放ったそのイエス様の心の同調性にある。『ひとつである』
ということ、もうイエス様は、勝ちとっているんです。あなたや私を含めて。「ああ、それだから私は、あのキャンプの夜、あの山上の垂訓を聞いた時に、もう、私の飢え乾いた心にピリッと、染み渡ったんだな」と思う。

イエス様の信仰が、そのみことばを解き放たれた時、私にやって来た。それに対して私は、見上げて、受け入れて、答えたと思う。応答したんです。つたないけれどね。応答の最中で、自分の汚れや自分のだらしなさや自分の欠けや・・・いっぱい分かった。分かったけれど、それさえも、もう、イエス様は、自分の苦しみの中で、受け止めて下さった。だから、今、このセミナーで言ってることばで、言えば、「もう、サタンや蛇が持ってくる誘惑、楔に、負けるまい」と。「気をつけよ」と。「神に従いなさい。そして、サタンに立ち向かいなさい」と書いてある。サタンは、イエス様にはもう手が出ないけれど、イエス様のところに行こうか行くまいか、あるいは、行ったと思っても別個にいると思っている人に、もう、あの人この人に吠えかける獅子のように、食いついてやろうとして、待ち望んでいると、書いてかる。でも、イエス様の中に居て、しっかり、立っていたら、私達は、負けることがない。サタンや悪霊があなたを見たら、イエス・キリストの体に見えて、もう、手出し出来ませんよ。46：51

あの一、この本の中にも書いてあるんですけど、もう、卑近な例ですよ。みなさん、何度も聞いたでしょう。いい？ここに一枚の紙があります。(紙を丸めてクチャクチャにされる。そして、それを広げて、みんなに見せられる。)もう、しわくちゃです。そして、もう色々書いています。ぐちゃぐちゃと、落書きが書いてあります。でしょ。もうボロボロです。破れてるところもあります。破れかぶれです。そうじゃないですか？こんな、ぼろぼろの紙。LINEのみなさん、ことばで言いますから、想像して下さい。もう、クチャクチャで汚い、もみくちゃにされた、誰が見てもこれをゴミと言います。誰もこれを拾ってポケットに入れようと思いません。もう、きつたない、踏み付けにされたゴミ、ですよ。これが、みなさん、あなたです。かつての私です。こんな誰が大切だと言いましょか。「きたないなあー、誰が捨てたのよー」と、言われるほど。だけど、いい？このゴミが、この綺麗な本の中に、これを入れられたら、ね。入っちゃったら、これが『キリストに在る』ということです。『神に在る、キリストに在る』ということです。今、あなたはどこにいるんですか？この綺麗な本に挟まれて。これ、誰が見ても"綺麗な本"ということです。これが『キリストに在る』ということです。49:08.21

この本が綺麗な本棚の上に置かれたんだったら、あなたはどこにいるんですか？綺麗な本棚の中じゃあない
ですか。この本が、天の父なる右に置かれたんだったら、あなたはどこにいるんですか？あなたは天の父なる
神の右に一緒にいるんじゃあないですか。でも、その前に、この本が、もし、もしですよ、捨てられて踏んづけられて、グチャグチャにされたとしたら、あなたはどこにいるんですか？この本の中にいるんです。この本の中にあなたは十字架につけられ、この本が蘇って、拾われて、掲げられたら、あなたはどこにいるんですか？
この本の中じゃあないですか。これが天に置かれたら、天にいます。・・・ですよ。この関係なんです。
『相互内在』の『キリストの中にいる私』というのは、こういうことよ。50：27

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

じゃあ、サタンが、この本を見たら、どうですか？サタンがこの本を見たら、「うっ、キリストじゃないか。もう、こりゃあ、かなわないじゃないか。もう、帰ろう」ということになる。だったら、何をビクビクして、私達は、これからの人生、歩く必要があるんですか？何を気にして、おどおどして、歩く必要があるんですか？過去の傷も苦労も、それによる自分の心の習い性も癖もですよ、もう、父なる神の養いと過程の中で、忘れていいんです。新しく歩んでいいんです。51：33

「古いものは過ぎ去った。みよ、全て新しくなったんだ」と。そこに、自分の心を、イエス様がこの 22 篇を取り上げたように、みなさん、我々の信仰の祈りというのは、この最後の『私の決意』と『宣言』、そして、『我と汝の共同体性の完成』と『勝利』まで宣言している。祈るんだったら、ここまで祈りきらないといけない。出来るんです。

「苦しい今の私の状況を祈ります。神様。〇〇してください」と。あるいは、「祈って下さい」と人に頼みます。「何とかお願いします」と。願って、願って、祈って終わるんだったら、この本に入れられた自分の祈りではありません。私達が祈る、祈りは、最後の最後のこの『汝』への呼びかけ。『私の決意と宣言』『共同体の完成と勝利』、ここまで、あなたの言葉で、語れるまで、祈るんだったら、祈った方が良い。これが勝利の、イエス様の十字架と蘇りを通った完成したイエス様の『我と汝』の信仰なんです。53:38.38

だから、「お祈りして下さい」と人に言う時は、このプリント持って行って、いい？「この形のように祈って。私もそうするから」と、そう言った方がいいよ。単に同情的に、とりすがって、初めの『汝の叫び』の部分だけを私の祈りとしていちゃ駄目よ・・・というふうな言い方をしたら、本当にじゃあ、形だけ、そういう言葉を並べて、「私、この形でこのように祈りましたから」と、・・・そうじゃないですよ。分かる？！

『イエスの信仰に自分を合わせる』、その自分の中のその黙想が大事よ。そういう人はこうなんです。この本の中に自分があるけど、ちょっと（この本からはみ）出てるんです。自分が。ね。ちょっと出てる。残してる。だから、これを狙って来るんですよ、サタンは。「ちょっと待てよ、イエス様だと思ったら、違うぞ。これ、ほら、しっぽ出してんじゃあ。このしっぽを引っ張ってやる」・・・そうやって、私達は、ズルズルとダメージを受ける。55:24.15

言葉でこのように、みことばを通して、今日は聞きましたけれど、どうぞ、いっぺん聞いたから「はい、OK、OK」と、いうものではないと思います。どうぞ、何度も聞き直して下さい。黙想して下さい。でも、今日のところをどうぞ、ひとつ、覚えておいて下さいね。さっき言った、私の経験を「ふ～ん、浅原さんて、良い経験してるよねー。私はねー」と、思ったら、もうそれで、神様の『御国の完成』から、外れます。「その信仰、その経験は、私のものだ。こっちのものだ」と。56:28.20

後で学びますけど、イエス様と私は『相互内在』、『私達（イエス様と私）は、相互内在』ですけど、神様が見ているのは、『神の共同体（という兄弟姉妹）の間も、相互内在』です。ですから、私にきた証、あなたにきたインスピレーション、あなたにきた啓示、それは、あなただけのものではない、共同体のものです。「その経験、貰いました」という、あなたの中に、わたしがいる。わたしの中にあなたがいます。

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

この、『霊的完成』、如何ですか？私が勝手に作って言っているんですか？そんなことはありません。聖書の中を、関係性を、よく読んでみれば、共同体の中で、そこには、行き違いや対立はあります。勿論、ありまけれど、その対立さえも全体の、互いの益になるような、『相互内在の理解』がやって来ます。だから、対立も『良し』なんです。

敵を愛しなさい。表面的な今の状態での敵、味方。分裂、分派が、あったとしても、それは、今の自分の状態、レベルの中ではそうかもしれない。けれども、相手のレベルも、自分の成長ぐあいも変わってくるから、その対立も、歪み合いも、憎しみも敵対も、全部、裏返って来るんです。だから、神の国というのは、そのように、深く広く高い。そこに私達は招かれて、歩み始めています。59：10.73

今日のところは、(あ、そうか)と、ちょっと、気がついたところがあったから、このまま、静かに帰ろうか(笑)というところ、ですか？・・・でも、どうぞ、あなたに決心があったなら、「良し、それを私のものとしていこう」という意志を使ってください。あなたの意志を、今の気持ちを、ぽや～として終わるのではなくて、「よっしゃ、それ、もらった!」「それ、いただき!」として、一歩、二歩、帰りかけてごらんください。もう、来た時と違うから。我々の出会いは、みんな、その連続ですよ。

私も来て、ここで話しているけれど、話してる内容とみなさんの反応を見て、そこで、みなさんのうちにある『永遠の汝』が、私を祝福し、私に語ってくれてるのよ。うん。それがあるから、私は楽しい。はい。しゃべりぞんだなんて、絶対、思わない。みなさんの存在のミニストーリーが、ここにあるのよ。LINE のみなさんは、顔は見てないし、ここにいないけど、LINE のみなさんが、同じリアルタイムで、耳を傾けているという、その存在性の中で、私は耳を澄ませています。聖霊がその中で、語りかけてくれるのは、みなさんが、耳を傾けて、そこに存在しておられるからです。そうなんです。

だから、今日のキングダムセミナーが終わって、夜、帰る時、車を運転しながら、もう、沸々と、今日、私に語られたこと、みなさんから、応答を得たことをこう、自分の中で思い巡らします。1：01：52

最近、この終わりの時間に、みなさんからの質問やコメントの時間を設けていません。でも、どうぞ、何か質問があったら、このグループの中から私の LINE アカウントをポチっとして、LINE して下さい。また、他に、電話をして下さる方も何人もいます。1:02:32.59

今、ここでは、質問は駄目なんだろうかと、言われました。

参加者:今、聞いて疑問を持ったことを、忘れないうちに質問したいと思うのですが、駄目なんだろうかと？

先生:何か質問がありますか？コンパクトに話して頂けますか？

参加者:人の体験を自分の体験として、受け止めることができると、言われたんですけど、それは、ある程度、信仰のレベルに関わって来るのかな？という思いがあって、・・・まあ、自分は、まだそこまでのレベルにっていないにしても、今言われたみたいに、自分の意志、自分の信仰で、それを受け止めれば、いつかは、それが自分のものとして、受け入れることができるようになるんでしょう・・・けれど、そ

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

それは、その人の信仰のレベルによるのか、自ずと開かれていくものなのか、知りたいです。

それに、人が経験したことは、やはり人が経験したことなので、私は、欲張りなので、同じ経験でなくとも、やっぱり、自分が、経験したいです。

先生:うん、そうだね。非常に、がっつり、欲張りで良いんじゃないですか。(笑)

参加者:(笑) 要するに、言いたいことは、自分の意志で、自分の信仰で、それを自分のこととして、受け止めるという、そこが、大事と言ってるわけですか？それが、いつかは、ちゃんと理解できるようになるということですか？

先生:そうです。イエス様が経験したこと、弟子達の前でやったことは、弟子達には、驚きでしたよね。あらゆることが。でも、弟子達は、それを見て、いつか、自分達も・・・ということだったんでしょ。

イエス様が水の上を歩かれるのを見て、「主よ、私にも命じて下さい」と言って、彼は波を見て怖くなって、沈んじゃったけど、その時の彼のレベルではね。でも、イエス様のやったことは、・・・イエス様は「これは、わたしにしかできません」と、言ってない。『あなた方も出て行って、同じようにしなさい』と、まあ、言わば、勧めている。・・・だから、その証や体験を聞いて、驚いて、「えー、そんな一、あの人があったから、そうだったんだよねー」って、言わない。それを、《あの人にくれた神は、私達もその体験とその領域の中に入れて、私達にも贈ってくださったんだな》と捉えるのか、それとも、《神様は、えこひいきでケチだから、蒔かないところから刈り取ろうとする。そんなケチな方だから、自分は違うわ》というのか、それは、その人の意思であり、チョイス。だから、「大きなところ、届かないようなところ、驚くようなところでも、自分のものだど、思って、受け取った」という信仰を動かせばいい。それだけの事。そして、それに届かない自分の今のレベルを打ち叩かない事です。ウキウキ、喜んで、その中にいることを楽しむこと、です。

参加者 2:自分は駄目だ、出来ない、出来ないという思いに負けていたけど、少しその気持ちから離れてきたようにおもいます。・・・で、今、聞いていて、『信じる信仰』のことを、言われているんだなって、受け取れて、神様に対しての見方が変わってきたように思います。

先生:はい、今日のキングダムセミナーは、セミナー本の前半部分の非常に、重要なエッセンスです。それを今日、耳に新しいうちに、お話しさせて頂きました。今日のところは、最後に「良し、貰った！」ということで、終わりにします。

賛美 1 : 15 : 55

祈り

みなさん、心を合わせられる人は、どうぞ、心を合わせて下さい。

今日のこの信仰に一步踏み出してみようではありませんか。我々は、今、会場にいる人も、LINE で参加の人も、そして、この録音を後程聞いている、その聞く、その時も、神の臨在の中にあり、神の信仰の中にあります。私達は、これまでの、かつての、古い信仰を一つ、破れれ去り、そして、突き破って、新しい毎日の神の国の共同体の信仰に進みます。突き破ります。それぞれの意志を通して、信仰を使います。ダビデが現し、イエス様が完成したその信仰の中に、私達は、自分を置きます。これは、私達の自生の、自作の信仰ではない。主が創り上げられた、主の信仰です。我々の毎日の小さなことから、大きなことまで、我々は、この中で、この信仰の中で、歩み、使って、歩きます。これを解き放ちます。あなたから与えられたこの自

5C 5 回目キングダムセミナー20250510

由を、この愛を、この信仰を、そして、この癒しを、今、我々共同体の一人ひとりの中に、今、信仰で、解き放そうではありませんか。今、それを使おうではありませんか。それが、私達の今日の行動です。アーメン。主よ、これを決心します。今日のこの出会いを、集められたことを感謝します。永久に、主の御国に栄光がありますように。アーメン！